国道45号 8日ぶり開通

宮古第３トンネル 通行止め解除

通行止めが解除された国道45号宮古第３トンネル＝21日午前６時１分、宮古市崎山

台風19号の豪雨で宮古市崎山の宮古第3トンネルで土砂崩れが発生し、周辺の約7㌔が全面通行止めとなっていた国道45号は21日、8日ぶりに開通した。市中心部と田老地区を結ぶ路線で、通勤・通学や通院など不便な暮らしを強いられていた住民は歓迎。バス路線も運行を再開した。沿岸を縦貫する「動脈」が復活し、災害ごみの運搬も動きだす。

午前6時、三陸国道事務所の職員らが同トンネル前の通行止めを解除。待ちわびたように車の往来が始まった。盛岡市へ向かおうと同5時半から車列に並んだ宮古市田老の工藤初雄さん(76)は「自宅前は田老と同市内を結ぶ迂回路で、通行量が急増し怖かった。普段は宮古市内まで20分ほどだが、ひどいときは3時間かかり本当に不便だった」と安堵していた。

同市田老の宮古北高に長男と友人2人を送り届けた同市中里団地の主婦藤田洋子さん(48)は「通学が楽になるので助かる」と感謝した。

岩手県北バスは21日から通常運行に。同市から岩泉町の小本まで行けるようになり、佐々木隆文宮古営業所長は「県立宮古病院に通院する方も多い。地域の足として役割を果たしていきたい」と力を込める。

田野畑村では大量に発生した災害ごみを処理施設のある宮古市に運ぶことができず村内に仮置きしてきた。同村の工藤隆彦生活環境課長は「処理が必要な流木や土砂、家庭ごみも運びやすくなる」と語る。

今回の国道寸断を受け、山本正徳市長は「三陸道整備の必要性が高まった。三陸道の宮古市以北の全線開通、宮古岩泉間を通る国道340号の早く着実な整備を求めたい」としている。

宮古第3トンネルはスノーシェルター部分から土砂が流入。13日から通行止めになっていた。

台風19号

台風19号の大雨で、宮城県丸森町は中心部一帯が広範囲にわたって浸水した。避難所も浸水し、町役場は連絡手段が限られるなど、事実上の機能不全に陥った。古くから水害が多い阿武隈川流域に位置し、過去に同様の被害に遭ったにもかかわらず教訓が生かされたとは言えない結果になり、住民から不満の声が上がる。専門家は「住民への情報伝達を担う役場の責務は大きい」として改善の必要性を指摘する。

役場は内部への浸水こそ免れたものの、周辺が浸水し、自衛隊や消防のボートでしか行き来できない状態が15日まで続いた。電話は固定回線が一時使えなくなった。携帯電話もつながりにくい状態だった。

宮城・丸森 町役場機能喪失

町総務課は「災害対策本部は適切に機能していた」との見解を示したが、課の担当者は「活動が十分だったかと言われたら、議論はあるだろう」と言葉を濁す。

近くに住む自営業今野茂男さん(69)は「拠点になるはずの役場が浸水しやすい場所にあるのは問題だ」と憤る。台風が上陸した12日は家族を役場に避難させ、自身は自宅に残ったところ、床上浸水に。役場と往来できなくなった。

同町の金山地区では、住民約20人が集まった避難所も浸水。避難者は2階に上がって無事だったものの、浸水した自宅に帰らざるを得なくなった。当時、避難所で待機を続けた町職員は「役所と数時間に1回くらいしか連絡できない。地域の詳細もよく分からない」と途方に暮れていた。

被災教訓生かされず

15年関東・東北豪雨 17年台風21号

住民、不満と憤り 識者、検証訴え

台風19号の影響で浸水した宮城県丸森町役場（中央）周辺＝13日（共同通信社ヘリから）

同町では、台風19号でこれまでに8人が死亡、行方不明が3人と宮城県内で最大の人的被害が出た。

丸森町は2015年9月の関東・東北豪雨や17年10月の台風21号でも中心部が浸水したが、役場の機能喪失まで考慮した対策はほぼ検討されてこなかったという。

町議会でかつて水害対策を取り上げた石井央町議(70)は背景に財政上の制約を挙げる。「排水ポンプを増やすなど『その場しのぎ』しかできなかった。(役場移転など)数十年先を見据えた対策が必要になるだろう」

東京女子大の広瀬弘忠名誉教授(災害リスク学)は対策本部を外部に設置するなどの検討が必要だと強調。「今回の役場の動きを検証し、今後の災害対応に生かすべきだ」と話した。

園児の顔たたいた 容疑で副園長逮捕 福岡

福岡県宗像市の私立「日の里西保育園」で、男児の顔面をたたいて全治約2週間のけがを負わせたとして県警は21日、傷害容疑で副園長で保育士の清原こづえ容疑者(40)＝福岡市中央区白金1の2の12＝を逮捕した。

逮捕容疑は6月26日午前8時半～同11時半ごろの間、保育園内で男児(6)を手のひらでたたいてけがを負わせた疑い。

県警によると、男児に「ブリッジ歩き」をさせているときにたたいたとみられる。清原容疑者は「泣いていたので、励ますために両頬にタッチするように触れただけだ」と否認している。

当日の夕方、男児を迎えにきた母親がけがに気付き、清原容疑者に尋ねると「どこかにぶつけたかもしれない」と言われたという。男児は後日、病院で診察を受け、改めて問いただすと「(指導中に)手が当たったかもしれない」と話したため、不審に思い警察署に被害届を出した。

宗像市は21日、保護者から清原容疑者の暴力や指導に関する相談が2016年から計11件寄せられていたと明らかにした。

元カトゥーン田口被告に猶予判決 大麻取締法違反の罪

大麻取締法違反（所持）の罪に問われたアイドルグループ「KAT-TUN(カトゥーン)」の元メンバー田口淳之介被告(33)と、元女優小嶺麗奈被告(39)に対し、東京地裁は21日、それぞれ懲役6月、執行猶予2年（求刑はいずれも懲役6月）の判決を言い渡した。

当初の判決は7月30日の予定だったが、検察側の請求で延期されていた。検察側はこの日の公判で、関東信越厚生局麻薬取締部が捜索差し押さえをした際の撮影映像をマスコミに提供したことから、その手続きの適法性や押収物の証拠能力などを吟味する必要があったと理由を説明。その上で「訴訟経過も加味する」とした。

小嶺被告の弁護人は判決後、映像提供は国家公務員法の守秘義務に違反するとして、同部の担当課長ら2人に対する告発状を東京地検特捜部に提出した。厚生労働省は問題がなかったか調査中としている。判決理由で長池健司裁判官は「大麻の入手先を捜査機関に供述して関係を絶った」などと指摘。延期を念頭に「訴訟経過も加味する」とした。

一関市職員が酒気帯び運転 容疑で摘発

一関市は21日、主事級の20代男性職員が道交法違反（酒気帯び運転）の疑いで一関署に摘発されたと発表した。

市によると、職員は19日午前3時5分ごろ、同市駅前の市道で自家用車を酒気帯び運転した疑いで摘発された。同署員が呼び止め、呼気検査で基準値以上のアルコールが検出された。

職員は18日夜、JR一ノ関駅前の飲食店で開かれた職場の懇親会でビールや日本酒、別の飲食店2店でハイボール4杯などを飲んだと市に対して説明。タクシーで帰宅後、携帯電話を忘れたため徒歩で店に戻り、駐車場に止めていた自家用車で約30分休息後、運転したとしている。

職員は市に対し「雨が強かったことや、駐車料金とタクシー料金を節約したかった」と話している。

同市は3月に酒気帯び運転容疑で課長級の50代男性職員が摘発されたばかり。勝部修市長は「誠に遺憾で市民に深くおわびする。交通安全意識の徹底を図る」とのコメントを出した。

東北新幹線が異常音で停車 上下5本に遅れ

21日午後5時半ごろ、東京発盛岡行きの東北新幹線やまびこ57号（10両編成）が宮城県の白石蔵王―仙台間を走行中、運転士が異常音を聞いたため、緊急停車した。

車両点検と安全確認を行い、30分後に運転を再開した。東北新幹線は上下計5本が最大30分遅れ、約2600人に影響した。

JR東日本によると、車両に異常はなかった。同社が原因を調査している。

ニュースファイル

◆傷害の疑いで逮捕 釜石署は20日、傷害の疑いで、釜石市片岸町8の114の1、会社役員山崎規甫容疑者(73)を現行犯逮捕した。逮捕容疑は同日午後11時10分ごろ、同市内の飲食店で、同市の自営業男性(72)の顔を素手で数回殴り、唇に傷を負わせた疑い。同署によると、山崎容疑者は容疑を否認している。2人は店内で共に飲食していた。

◆労働者派遣法違反の疑い 盛岡西署と県警組織犯罪対策課は21日、労働者派遣法違反の疑いで、盛岡市茶畑2の6の1、無職能渡誠容疑者(40)を逮捕したと発表した。逮捕容疑は5月20日～6月8日、北上市内の工事現場に計14日間にわたり、県内の知人男性を塗装作業員として派遣した疑い。同法は建設業務の労働者派遣事業を禁じている。同署によると、能渡容疑者は「やっていない」などと容疑を否認している。

◆北上で居間の天井など焦がす 21日午前7時10分ごろ、北上市黒沢尻1の17の7、亀田重信さん(79)方から出火。木造2階建て住家の2階居間の天井、布団など約10平方㍍を焦がした。家族がカセットこんろを使っていたとみられ、原因調査中。（北上署調べ）

◆宮古でキノコ採り男性一時不明 20日午後7時50分ごろ、宮古市津軽石10の166、菅野良治さん(85)がキノコ採りから戻らないと、家族が宮古署に届け出た。同署などが21日朝から捜索し、午前7時半ごろ、自宅から約2㌔離れた林道で倒れている菅野さんを発見。菅野さんは同市の県立宮古病院に搬送された。

同署によると、菅野さんは20日午後1時半ごろ、自宅近くの山林に1人で入った。菅野さんは発見時に意識があり、けがはなかった。

吾妻 ひでお氏（あづま・ひでお＝漫画家、本名日出夫＝ひでお）13日未明、東京都内の病院で死去、69歳。北海道出身。葬儀・告別式は近親者で行った。喪主は妻紀三代（きみよ）さん。食道がんで闘病していた。

69年にデビュー。「ふたりと5人」や「不条理日記」など美少女、SF、不条理をテーマにしたマニアックな作品が注目された。

一方で2度の失跡やアルコール依存症による入院などを経験。05年に「失踪日記」として発表し、ロングセラーに。同年の日本漫画家協会賞大賞と、06年の手塚治虫文化賞マンガ大賞を受賞した。

三田 明子さん（みた・あきこ＝岩手女子奨学会名誉理事長）17日午前8時50分、老衰のため、盛岡市若園町3の2の自宅で死去、102歳。東京都出身。火葬、葬儀は近親者で行った。お別れの会は30日午前11時から、盛岡市愛宕下の盛岡グランドホテルで。喪主は孫俊成（としなり）氏。

岩手女子高副校長などを経て、01年岩手女子奨学会名誉理事長。97年盛岡市勢振興功労者、03年県勢功労者。

この紙面の著作権は岩手日報社が保持しています。無断転載、複製及び配布は禁止します。